

(様式 3-1)

平成 29 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 30 年 5 月 5 日
代表者 亀崎 美沙子

| | |
|--|------------------------------------|
| 研究課題名 | 保護者支援の葛藤における保育士の意識構造に関する基礎研究 |
| 研究期間 | 平成 29 年 6 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日 |
| 共同研究者 | なし |
| 1. 今年度の研究概要 | |
| <p>本研究の目的は、保育所における保護者支援における葛藤の解決に向けて、子育て支援における保育士の意識に焦点化し、文献検討を通して、その実態を明らかにすることである。</p> <p>保育士は法律上、子どもの保育と保護者支援を同時に担っている。そのために、子どもの利益と保護者の利益の間で板挟みになり、葛藤が生じやすい（木曾, 2011; 亀崎, 2015a; 亀崎, 2015b; 亀崎, 2016a）。これは保育士個人の力量の問題というよりも、役割の二重性という職務の特性上、避けることのできない構造的問題である。</p> <p>役割の二重性によって生じる葛藤の解決には、葛藤状況において、保育士がどのような意識を持ち、何にもとづいて意思決定を行うのか、即ち、保育士の意識について、検討を加える必要がある。</p> <p>そこで本研究では、保育士の意識に焦点をあて、①保育士の母親規範意識に関する研究、②保育士の倫理に関する研究、③保育士養成における倫理教育に関する研究、④看護領域における倫理に関する研究、⑤アメリカにおける保育の倫理に関する研究等を中心として、保育士の意識の側面から保護者支援の葛藤構造について検討を行った。</p> <p>その結果、他領域や海外の保育に比して倫理に関する研究自体が少なく、倫理教育や研修が不足していること、保育士は母親規範意識が高いこと等が明らかとなった。また、子育て支援の葛藤の解決のためには、具体的な倫理的基準の整備の必要性が示された。</p> <p>なお、当初の計画では、保育士へのヒアリング調査を実施予定であったが、予算が大幅に減額されたことに伴い、文献研究のみの実施となった。</p> | |
| 2. 研究の成果 | |
| <p>1. 研究成果として得られた知見</p> <p>保護者支援の葛藤について、関係文献の検討を行った結果、以下のことが明らかとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 葛藤には、保育士の母親規範意識と専門職としての倫理意識がかかわっていること (2) 保育士は母親規範が高く、それが子育て支援の葛藤につながっていること (3) 保育士の倫理に関する研究はきわめて招集であり、葛藤解決のための倫理原則が具体化されていないこと <p>これらの知見を踏まえて、今後は、母親規範意識と倫理意識の両面から、葛藤における保育士の意識について調査を実施したい。</p> <p>2. 研究成果の発表</p> <p>本研究の成果として、日本保育者養成教育学会において発表した。また、今後、日本保育学会(2018年5月)ならびに日本子ども家庭福祉学会(2018年6月)において、研究成果の発表を予定している。</p> | |

3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

（1）日本保育者養成教育学会第2回研究大会

- ・ テーマ：「保護者支援における保育士の葛藤構造に関する検討（1）－職務をめぐる構造的側面に着目して－」
- ・ 発表時期等：2018年3月4日（於：共立女子大学）
- ・ 発表形式：ポスター発表

（2）日本保育学会第71回大会【予定】

- ・ テーマ：保護者支援における保育士の葛藤構造に関する検討（2）
- ・ 発表時期等：2018年5月12日（於：宮城学院女子大学）
- ・ 発表形式：ポスター発表

（3）第19回日本子ども家庭福祉学会【予定】

- ・ テーマ：子育て支援の葛藤における保育士の意識－母親規範意識と専門職倫理に着目して－
- ・ 発表時期等：2018年6月3日（於：神奈川県立保健福祉大学）
- ・ 発表形式：口頭発表